

第7回火山噴火予知連絡会議事録

日 時：昭和51年5月20日（木）13時30分～16時30分

場 所：気 象 庁

出席者：永田、横山、高木、浅田、下鶴、行武、青木、久保寺、加茂、太田（九大）、吉田（科技厅）、
生田（国土庁）、若松（文部省）、瀬戸、大島（水路部）、小林、諏訪、末広、神沼（幹事）、
臨時委員：小坂（東工大）、高橋（博）（国立防災科学技術センター）

〔議事に先だち、末広委員から気象庁人事異動により新委員観測部長、小林寿太郎氏の紹介と臨時委員二氏の紹介があった。〕

1. 第6回連絡会議事録（案）は異議なく承認された。

2. 最近の火山活動について（報告及び検討）

永田会長から桜島、草津白根山、阿蘇山、……の順で実施したいと提案があった。

2.1 桜 島

加茂委員：新しく展開した観測網によりA型地震の震源をかなり正確に捕捉できるようになった。最近の震源は南岳火口付近から南南西に海上までのび、次第に深くなっている。5月中旬に活動が高まったが、A型地震が多くないので大活動へ進展するとは考えない。2回目の集中観測は今年10月半ばから11月中にかけて、第1回と同じ項目について実施したい。水準測量は実施していないが、島内に増設した検潮儀では、急激な動きはなく、地殻変動は横ばいの可能性が強い。5月13日の爆発で3本煙が立つのを目撃し、新火口の可能性を鹿児島地台へ連絡した。

気象庁・野島：13日の爆発の前兆地震は顕著でなかったが、17日の爆発のときは16日に火山性地震の群発があったので16日10時15分に臨時火山情報を発表した。17日の爆発で垂水市の小学校（火口から7km）の窓ガラスが強い空振により破損した。

瀬戸委員：桜島付近一等水準点上下変動（1968年に比べ1975年測量の時点では、桜島北方の鹿児島湾下の隆起の中心はやや北へ広がったと推定される。）

南岳火口に溶岩が上がり火道をふさいでいるとの新聞写真記事をどう判断するか（永田会長）について次の見解が示された。

- ・いま鹿児島地台に火口写真の印象について電話照会したところ、昨年8月の火口状態と似ており、特に新しい現象ではないということである（末広委員）。
- ・A型地震の発生状態からみる限り、ラバフローは考えられない（加茂委員）。
- ・昭和35年ごろから活動時に火口に溶岩を押し上げる現象が認められており、今にはじまったことではない（諏訪委員）。
- ・大活動の前にはもっと異常現象が発生するはずである（横山、下鶴、久保寺委員）。

また統一見解をまとめる段階で「14日の衆議員災害対策委員会で13日の爆発によるフロントガラスの破損は国が補償すべきではないかとの意見が出た」と発言があった（国土庁・生田委員代理）。

(統一見解) 桜島の火山活動について

昨年12月以来、一時小康状態にあった桜島南岳の活動は、今年2月を底に上向きに転じ、5月13日と17日にやや顕著な爆発を起こした。

これは現在活動期にある桜島火山活動の一進一退を示すものであって前回(S.50.10.20)の見解にも述べたとおり、このまま大規模な活動に移行する兆候は依然として認められない。

最近各種の観測手段は改良強化されつつあるので、現在の技術水準によれば大活動が近くなれば、ある程度の前兆をつかみ得ると期待される。今後とも総合観測を続けて防災に役立つ情報を得るべく努力を続ける。

2.2 草津白根山

小坂臨時委員：草津白根火山1976年活動概要

気象庁・原田：草津白根山の火山活動(特に震動観測結果)について

下 鶴 委 員：草津白根山水釜新噴火孔底の温度分布

観光客が火口近くに多数訪れるので小活動があっても災害を起こす恐れがある。大学・気象庁とも総合的に観測を進めるとともに、気象庁は恒久観測施設の整備に努力する。

2.3 阿蘇山

気象庁・野島
久保寺委員 }：静かである。

2.4 口永良部島

気象庁・野島：4月1日噴火し、村落に降灰があり県の地震計にはB型地震の増加が認められた。現在おさまっており、噴気がかすかに認められる程度である。

2.5 硫黄島

高橋(博)臨時委員：特に危険な兆候はないが、今年1月の水蒸気爆発程度の活動はあり得る。

2.6 北海道火山

横山委員：空中赤外映像撮影による北海道火山の地熱状況

2.7 その他

瀬戸委員：鳥海山付近水平歪

気象庁・野島：浅間山の状況(おだやかである)

下 鶴 委 員：伊豆大島の光波測量結果

3 連絡会庶務報告

4 協議事項

4.1 本連絡会会報に使用する「国土地理院発行地図」の取扱いについて

規定どおり、その都度、国土地理院の承認を求める。また会終了後、大島委員代理(水路部)から「水路部、発行海図」についても同様に取扱いをお願いしたいと庶務に申し出があった。

4.2 臨時観測(集中観測・機動観測)について

大学で計画している臨時観測は次のとおりで他機関もできるだけ参加が望ましい。50年度は科研費であったが、51年度は大学の事業費で実施する。

50年度 伊豆大島 桜島

51年度 草津白根山 桜島

52年度 浅間山 伊豆大島 三宅島 阿蘇山

53年度 有珠山 桜島

4.3 次回連絡会開催期日

10月ごろ、永田会長の予定(10月11日～16日アルゼンチン、18日～23日 本会議)、火山学会開催日(10月15日～18日)を除き、適当な日を追ってきめる。

4.4 本連絡会会報100部増刷分の配分方法

会報第6号(6月15日発行予定)から100部増刷が認められたので委員は必要部数を5月末日までに連絡会庶務に連絡し所定部数をこえたときは庶務で調整する。

5 その他

会長提案により「地震のマグニチュードに相当する噴火のマグニチュードのようなもの」の作成に、大学・気象庁が一体となって取組むことになった。定義、測定の方法等から着手し改良を重ねていけば、将来、有効なものができるであろう。

(17:00～17:20、記者会見、気象庁記者室)